国立大学法人
# 筑波技術大学
National University Corporation
Tsukuba University of Technology

日本でただ一つの
きこえない・きこえにくい人、
みえない・みえにくい人
のための国立大学



# 2026-2027
# 大学概要

# 目　次


1 沿革
2 学長あいさつ
基本的目標
3 本学の特色
本学の果たす役割
4 聴覚・視覚障害の特性
5 組織図
6 産業技術学部
保健科学部
7 共生社会創成学部
大学院技術科学研究科
8 障害者高等教育研究支援センター
9 教育研究施設等
10 教育関係共同利用拠点・主な連携事業
情報公開
11 建物配置図
12 キャンパスの所在地・交通




# 沿　革

| | |
|---|---|
| 昭和51年６月 | 聴覚障害者教育団体等により「聴覚障害者のための高等教育機関の設立を推進する会」が結成され、関係方面に対して当該機関の設立推進を要望 |
| 昭和52年５月 | 視覚障害者教育団体等により「視覚障害者のための高等教育機関の設立を推進する会」が結成され、関係方面に対して当該機関の設立推進を要望 |
| 昭和58年４月 | 筑波大学に身体障害者高等教育機関創設準備室を設置 |
| 昭和62年10月 | 国立学校設置法等の一部を改正する法律（昭和62年法律第５号）により、筑波技術短期大学を設置、初代学長に三浦功就任 |
| 平成２年４月 | 第１回産業技術学部（聴覚障害）入学式を挙行 |
| 平成３年４月 | 第１回保健科学部（視覚障害）入学式を挙行 |
| 平成５年４月 | 第２代学長に小畑修一就任 |
| 平成11年４月 | 第３代学長に西條一止就任 |
| 平成15年４月 | 第４代学長に大沼直紀就任 |
| 平成16年４月 | 国立大学法人　筑波技術短期大学に移行 |
| 平成17年10月 | 国立大学法人　筑波技術大学開学、初代学長に大沼直紀就任、筑波技術短期大学は大学の短期大学部に |
| 平成18年４月 | 第１回筑波技術大学入学式を挙行 |
| 平成21年４月 | 第２代学長に村上芳則就任 |
| 平成22年４月 | 大学院修士課程技術科学研究科を設置、第１回大学院入学式を挙行 |
| 平成26年４月 | 大学院修士課程技術科学研究科に情報アクセシビリティ専攻を設置 |
| 平成27年４月 | 第３代学長に大越教夫就任 |
| 平成31年４月 | 第４代学長に石原保志就任 |
| 令和７年４月 | 共生社会創成学部を設置 |

# 学長あいさつ

国立大学法人 筑波技術大学長　石原　保志



筑波技術大学は我が国で唯一の障害者（聴覚障害者、視覚障害者）のための高等教育機関として1987年に設立されました。入学者の出身地は全国にわたり、各キャンパスでは様々な地域、環境で育った、同じ障害がある学生どうしのコミュニティが形成されています。

少人数教育のもと、個々の学生の障害特性及び発達的特性に即した学修者本位の教育的支援が、学外実習を含めた学生生活の様々な場面で展開されています。

近年は多くの大学で、障害学生に対する合理的配慮がなされるようになってきました。このような社会的変化の中で、筑波技術大学の強みは何か。それは、他大学が障害学生の学修、学生生活における活動参加上の不利益を補うことを、いわゆる障害学生支援と位置づけているのに対して、筑波技術大学は学生一人ひとりの潜在的能力を最大限に伸長させるための教育的配慮を行っているということです。そのために、教職員が手話や点字を含めた情報伝達手段を駆使し、さらに情報を保障するための最新のテクノロジーによる学修環境を整備しています。聴覚や視覚に障害がある学生に情報を確実に伝達する、情報を知識として吸収し多分野の知識を統合する、そして知識を知恵に昇華させていくという教育の本質を、筑波技術大学では特に意識して実践しているのです。

この実践を通して培われた知見は、本学の研究を通して社会に公開されています。特にアシスティブテクノロジーに関しては、最先端の成果を発信しています。さらに障害者の教育、支援の拠点として、国内外の障害児者への支援を横断的、縦断的に展開しています。他大学で学ぶ障害学生への支援、特別支援学校をはじめとした大学入学前の聴覚・視覚障害児者への支援、そして社会人障害者及び彼らを取り巻く人々を対象としたリカレント教育等、本学が中核となり実施している様々な事業をいっそう充実させることで、理念に留まらない実質的なインクルーシブ社会の実現に貢献していきます。



# 基本的目標

国立大学法人筑波技術大学（以下「本学」という。）は、我が国で唯一の聴覚・視覚障害者のための高等教育機関として、開学以来培ってきた知見と活動内容を更に発展させ、公共財たる国立大学として、障害者の受入・支援を主軸に以下の役割を果たしていきます。

教育に関しては、個々の学生の障害特性及び障害に起因した発達的特性に即した、誰一人取り残さないきめ細かな教育、支援を行います。また、教養科目と各分野の専門性と併せて、障害に関する知識及びICTスキルを融合したカリキュラムを通して、急速に進む産業・職業構造の変化に対応するとともに、社会のダイバーシティ環境醸成に寄与する人材を育成します。

研究に関しては、教員個々の専門分野に関する研究と併せて、障害者支援と各専門分野との融合により生まれる研究を推進し、その成果を社会に還元していくとともに、障害分野の研究を牽引します。

このためにアクセシビリティに配慮した障害補償、情報保障システムを開発するとともに、本学の教育フィールドで培われた知見を科学的に検証、発展させます。これらの研究成果を社会に発信し、産業、医療の発展に寄与するとともに、障害者を取り残さない社会変革のための具体的知見、技術を提供します。

社会貢献に関しては、本学がこれまで積み上げてきた障害者教育、支援の実績を基盤に、障害者を含む社会人を対象としたリカレント教育、障害者を取り巻く人々への啓発活動、他大学に在学する障害学生の支援、障害者スポーツに関わる取組、特別支援教育機関や他機関との連携、高齢者に対する支援等を通して、社会で活躍する障害者を増やすとともに、障害者を包含した社会全体のダイバーシティ環境の醸成に貢献します。特に本学が受入対象とする聴覚・視覚障害者に対しては、学内にとどまらず全国の高等教育機関を対象とした横断的支援（全国の大学等の学生支援等）、世代を問わず幅広い層を対象とした縦断的支援（特別支援教育との接続、社会人等生涯学習等）を行うことで、聴覚・視覚障害者支援に関する我が国の基幹的役割を果たします。

大学経営に関しては、これらの目標に沿って、人的、物的、金銭的な資源を適切に配置、配分するとともに、第4期中期目標・中期計画に沿った個人、組織の働きと成果を適切に評価する体制を整備します。また、学長のリーダーシップの下でのガバナンス体制を強化するとともに、学内委員会等を含めた業務系統を、分野、機能の両面から整理し、省力化を図りつつ効率的かつ効果的な業務執行体制を構築します。

これらの取組を通して、本学は、社会に貢献する障害者人材を育成すると同時に、障害者がその能力を発揮し活躍する社会の発展に寄与していきます。

# 本学の特色

## 入学資格

- 産業技術学部、共生社会創成学部聴覚障害コース、技術科学研究科産業技術学専攻は、聴覚障害者であること。
  - ・両耳の聴力レベルがおおむね60dBHL以上※のもの又は補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能若しくは著しく困難な程度のもの
  - ※裸耳（補聴器を外した状態又は人工内耳のスイッチをオフにした状態）での聴力レベル
- 保健科学部、共生社会創成学部視覚障害コース、技術科学研究科保健科学専攻は、視覚障害者であること。
  - ・両眼の矯正視力がおおむね0.3未満であること
  - ・矯正視力が0.3以上であっても視機能（視野等）に重度障害があるか、将来、視力低下や視機能低下の恐れがある場合
- 技術科学研究科情報アクセシビリティ専攻には、障害の有無による入学資格は無い。

## 教育方針

- 主体的に考え、自律的に行動するための自己管理力を育成する。
- 論理的思考力と自己表現力に基づく対人コミュニケーション能力を育成する。
- 幅広く豊かな教養を身につける教養教育と、高度な専門知識と技術を修得する専門教育を行う。
- 障害特性に合わせた情報保障および障害補償能力の育成により、「伝わる・伝える」教育を提供する。
- 全てのカリキュラムを通じて協調性の涵養とリーダーシップの育成を図る。
- 初年次から卒業年次までを見通した系統的なキャリア教育を提供する。
- 自他の障害に対する深い理解を持ち、グローバルな視点から社会に貢献できる人材を育成する。

## 多様なニーズに応じた教育プログラム

- 多様な履修モデルの準備
- 個別対応学習プログラムの準備
- 体験型学習
- 基礎学力の確保

## 障害の特性に応じた教育方法

- 少人数教育
- 短期集中教育の実施
- 多様な支援技術の活用
- アクティブラーニングを用いた授業

## 社会との密接な連携

- 社会人を対象としたリカレント教育の実施
- 他大学に在学する障害学生の支援
- インターンシップの重視
- 特別支援教育機関等との連携



# 本学の果たす役割

## 学外における協力・連携・社会貢献

### 一般の方、地域の方

1. 障害補償機器の普及　2. 東西医学統合医療の実施
3. 障害に関する相談　4. 公開講座　5. 施設の貸出
等を通じて、社会のバリアフリー化や健康および高齢化社会に貢献します。

### 企業、官公庁、医療機関等

1. 共同研究
2. 人材交流をはじめ、高度専門技術者の供給・社会人の再教育
3. 障害補償機器の普及
等を通じて、産業社会の発展、障害者の就労環境の改善や社会参加および社会貢献の促進に寄与します。

### 外国の障害者高等教育機関

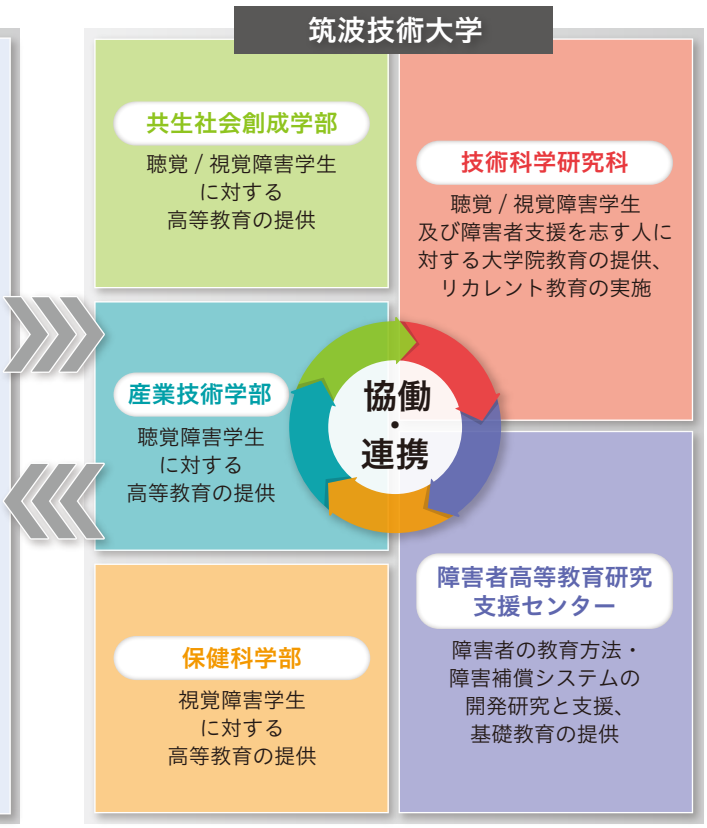
教育方法や技術の提供により、国際的視野での障害教育の向上や国際交流の推進、障害者の地位向上に寄与します。

### 他の大学等

大学全体のユニバーサル化や障害学生の教育向上のため教育方法、障害補償、職域開拓などの相談支援や単位互換も行います。

### 特別支援（聴覚障害・視覚障害）学校等

教育支援および（障害）補償機器・教材の提供により障害のある児童生徒の教育向上に寄与します。



# 聴覚・視覚障害の特性

耳や眼からの情報入手に制限のある学生が、高度で専門的な教育を受けるに際して遭遇する情報授受・コミュニケーションの障害こそが通常の大学では解決しにくい最大のバリアです。このバリアを取り除くことを「情報保障」と言います。本学は、我が国で唯一の聴覚・視覚障害者のための国立大学として、情報保障を教育の基盤に据えています。こうした環境作りの基本は、それぞれの障害の特性を理解し、把握することです。

日本国内の聴覚と視覚障害者の数は、聴覚・平衡機能障害者数が約44万人、視覚障害者数が約31万人です（e-Stat福祉行政報告例「身体障害者手帳交付台帳登載数，障害の種類別」令和６年度末数より）。これは、身体障害者手帳の交付に基づく数字で、実際には、手帳を持たない人の中にも見えにくさ・聞こえにくさを感じる人が多数いると言われています。

## ■聴覚障害の特性

聴覚障害は、「きこえない」から「きこえにくい」まであり、その中にも「まったくきこえない」、「高い周波数の音がきこえない」、「低い周波数の音がきこえない」、「音としてはきこえるが、不明瞭である」など、様々なきこえの状況があります。次の図に、聴覚障害のある人におけるきこえの一例を示しました。

○聞こえの程度

| 聴力（dBHL） | 音声の強さとdBHLの関係 | 障害等級 |
|---|---|---|
| 0 | 普通の人が聞こえる最も弱い音 | |
| 10 | | |
| 20 | ささやき声 | |
| 30 | | |
| 40 | 静かな会話<br>（コオロギの声・静かな室内） | |
| 50 | | |
| 60 | 普通の会話<br>（電気洗濯機・にぎやかな街路） | |
| 70 | | |
| 80 | 大声の会話<br>（電車の中・騒々しい工場） | 6級 |
| 90 | | 4級 |
| 100 | 30cmからの叫び声<br>（地下鉄の車内） | 3級 |
| 110 | | 2級 |
| 120 | 耳元の叫び声<br>（飛行機の爆音） | |
| 130 | | |
| | 30cmからのサイレン<br>（耳が痛くなる） | |

○聞こえ方のシミュレーション（例）

○伝音難聴の場合
（外耳から中耳にかけて音振動を伝える部分の障害）
音量が小さく聞こえる
おはよう → おはよう

○感音難聴の場合
（内耳や聴神経の音を聞き分ける部分の障害）
音の明瞭さが低下して、ハッキリ聞こえない
おはよう → おはよう

○混合性難聴の場合
（伝音、感音の両方に障害）
音量と音の明瞭さが低下して、ハッキリ聞こえない
おはよう → おはよう

公益財団法人　共用品推進機構、2002年「聴覚障害者が必要としている音情報」報告書より

## ■視覚障害の特性

視覚障害には全盲から弱視まであり、弱視の中にも、焦点が合わずぼやけてしまうタイプ、明るいと視力が低下するタイプ、逆に暗いと急激に視力が低下するタイプ、視野が狭いタイプ、視野の一部が欠損しているタイプ、それらが複合したタイプと様々です。下の図に弱視の見え方を図示しました。



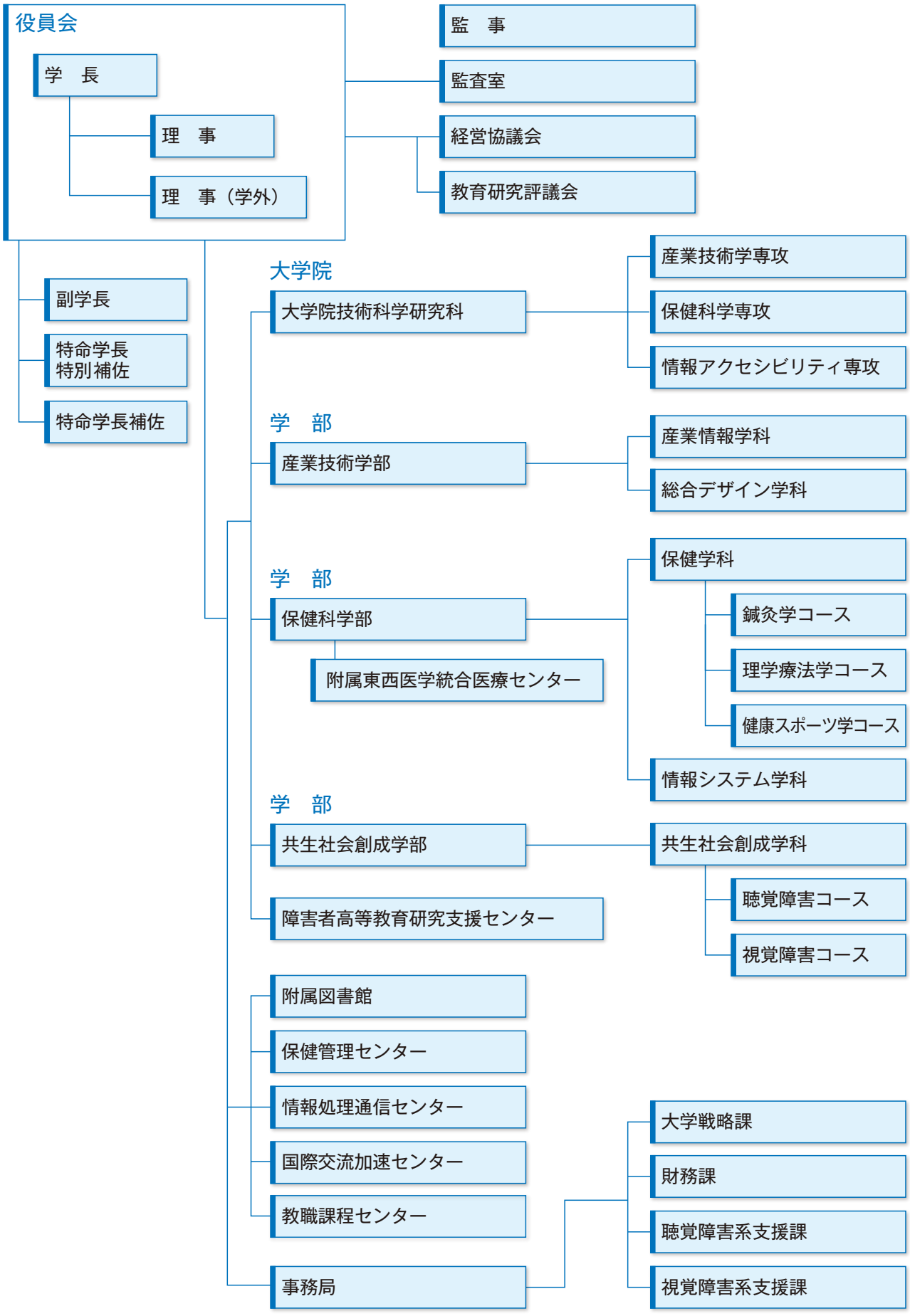
電子ルーペで本を拡大して読む様子

○弱視の見え方

| 見えにくさ | 見え方 | 対応方法 |
|---|---|---|
| 1．ぼやけてしまって細部がよくわからない | 屈折異常 → 拡大<br>細部が確認できない | 屈折異常<br>ボヤケ方は同じでも拡大すると文字が分かる |
| 2．光りがまぶしい | 白内障 → 拡大 / 白黒反転 / 周辺光のカット<br>薄くわかりにくい<br>まぶしい | 白内障 / 白内障 / 白内障 |
| 3．視野が狭く一度に見える部分が少ないため全体がつかみにくい<br>（歩行も困難） | 拡大は逆効果<br>高コントラスト<br>鮮明な画像 | 網膜色<br>文字たどりや検索が困難 |
| 4．視野の中心部が見えない | 拡大<br>見たい部分が見えない、細部がよくわからない | 弱視児の中には通常の教科書では<br>拡大すると中心部の隠れる文字も相対的に減り中心部以外で文字認識できる |
| 5．複合 | 弱視では、これらのパターンがくみあわされるケースが多く見られます | |

国立特殊教育総合研究所（現・独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所）・特別研究. 1993年「心身障害児の感覚・運動機能の改善および向上に関する研究」最終報告書より

# 組織図


役員会
学　長
理　事
理　事（学外）
監　事
監査室
経営協議会
教育研究評議会
副学長
特命学長
特別補佐
特命学長補佐
大学院
大学院技術科学研究科
産業技術学専攻
保健科学専攻
情報アクセシビリティ専攻
学　部
産業技術学部
産業情報学科
総合デザイン学科
学　部
保健科学部
附属東西医学統合医療センター
保健学科
鍼灸学コース
理学療法学コース
健康スポーツ学コース
情報システム学科
学　部
共生社会創成学部
共生社会創成学科
聴覚障害コース
視覚障害コース
障害者高等教育研究支援センター
附属図書館
保健管理センター
情報処理通信センター
国際交流加速センター
教職課程センター
事務局
大学戦略課
財務課
聴覚障害系支援課
視覚障害系支援課

# 産業技術学部

聴覚障害者のための高等教育機関として、「情報処理」、「ものづくり」、「デザイン」、「支援技術」を通して共生社会の構築に参画・貢献できる専門職業人を養成します。また、各専門分野の研究及び教育方法・機器等の開発により教育の改善に取り組みます。

## 産業情報学科

産業情報学科では、情報科学、機械工学、建築学、支援技術学を通して社会に参画・貢献できる専門職業人を養成します。情報科学コース、先端機械工学コース、建築学コース、支援技術学コースの４コースの編成によって、産業技術に対する総合的で幅広い視野を持つ人材を養成します。

### ●情報科学コース

情報科学コースでは、３つの分野（データ処理、ソフトウェアシステム、ハードウェア）についての専門知識を習得できる科目群を用意し、それらを基に柔軟なカリキュラムを提供します。

### ●先端機械工学コース

先端機械工学コースでは、機械工学の基礎に根ざした４力学（材料、振動、熱、流体）と機械工学に関する広範な専門知識の習得、さらに現代のものづくりに不可欠なコンピュータ支援技術（CAD/CAM/CAE/CAT）の習得を基軸として学びます。

### ●建築学コース

建築学コースでは、４分野（建築意匠系・建築計画系・構造工学系・環境工学系）を基軸とした科目群を系統的かつ横断的に履修し、習得した建築学の知識と技術を通して共生社会に参画・貢献できる専門職業人を養成します。

### ●支援技術学コース

支援技術学コースでは、３つの分野（情報保障工学、福祉機器工学、福祉住環境学）の領域を編成し、それらを基に柔軟でかつ横断的なカリキュラムを提供します。

## 総合デザイン学科

総合デザイン学科では、クリエイティブデザイン学コース及び支援技術学コースの２コースの編成によって、デザインに対する総合的で幅広い視野を持ち、デザイン学によって社会に参画・貢献できる人材を養成します。

### ●クリエイティブデザイン学コース

クリエイティブデザイン学コースでは、３つの分野（情報デザイン、グラフィックデザイン、プロダクトデザイン）それぞれに重点を置いた履修モデルを提案し、それらを基に柔軟なカリキュラムを提供します。

### ●支援技術学コース

支援技術学コースでは、アクセシブルデザイン学について、柔軟でかつ横断的なカリキュラムを提供します。



# 保健科学部

視覚障害者を対象とする高等教育機関として、技術革新や情報化、国際化が進む社会にあって、それらの変化に柔軟に対応できる専門的医療技術者及び情報技術者の養成を目指すとともに、健康や福祉に貢献できる専門家を育成します。

## 保健学科

視覚障害による情報授受の困難さを克服するため補償能力を高め、豊かな人間性を養うとともに、次の各コースにおいて、専門的な知識と技術を備えた人材を育成します。

### ●鍼灸学コース

鍼灸・手技療法に関する専門的な知識と技術を身につけたはり師、きゅう師、あん摩・マッサージ・指圧師の養成をします。特に、東洋医学と西洋医学の両視点を兼ね備えた高い専門性を教育し、現代医療に貢献できる専門技術者を育成します。

### ●理学療法学コース

理学療法に関する高度かつ専門的な知識と技術を習得し、リハビリテーション医療の一翼を担う理学療法士の養成を目指します。特に、実習科目や臨床実習において個別指導に重点をおいた教育を行うことで、学生が実務的能力を充分に発揮できるように指導します。また医療に従事するメンバーとして高い教養と常識を備え、人間関係を良好に保ち、真に患者様のためになる医療を追求する態度を身につけた専門技術者の育成を図ります。

### ●健康スポーツ学コース

運動やスポーツを通じて、人々の健康づくりやブラインドスポーツの発展に貢献できる専門知識と実践力を備えた人材を育成します。運動やスポーツの力で、誰もが健やかに、自分らしく生きられる社会の実現をめざし、運動やスポーツが心と体の健康を支え、病気の予防や豊かな日常生活につながることを、多角的かつ科学的に学びます。

## 情報システム学科

視覚障害補償技術を活用して、コンピュータとその応用技術の基本を学修します。情報技術（IT）の専門知識と操作を習得し、実際的なコンピュータ応用技術や企業ビジネス知識を身につけた専門技術者を育成します。情報システム履修モデルから経営情報モデルまで、適性にあった幅広い専門が選択できます。

# 共生社会創成学部

令和７年４月に開設された共生社会創成学部は、聴覚障害者と視覚障害者を対象とする学部で、情報アクセシビリティに関する情報科学的な知識と、社会と多様なマイノリティの関係に関する社会学的な知識を身に付け、ダイバーシティ＆インクルージョンをより一層推進する役割を担うことができる障害者を育成することを目指し、次の２コースを設置しています。

- 聴覚障害コース
- 視覚障害コース

## ■教育の特徴

１年次、２年次に履修する教養教育系科目・データサイエンス科目を基礎として、障害社会学系科目・情報科学系科目・共生社会創成プロジェクト系科目で構成される専門教育系科目を通して、職場や地域社会に存在する課題を抽出し、周囲の人々と連携しながら具体的に解決策を立てていく力を醸成します。

## ■育成する人材像

本学部が育成する人材像は、情報科学と障害社会学の知識を習得し、それを活かすことで、多様な人々が能力を発揮できる共生社会を創造、牽引する人材です。教育課程内・教育課程外の活動を通じ、学生一人一人が、障害補償のみならず、環境因子に目を向けて社会的障壁にアプローチできるようになることが、本学部の教育における指導目標です。

自らの能力を発揮できる環境作りのために周囲に働きかける力を育むことが、学生自身の社会的・職業的自立に繋がります。さらに、自らの経験を糧に、周囲の環境を改善することのできる人材として、学生を社会に送り出していくことで、真の共生社会実現に貢献していきます。



# 大学院技術科学研究科

筑波技術大学大学院技術科学研究科は、聴覚・視覚障害者のための大学院として、障害がありながらも産業技術や医療技術に関するより高度で専門的な知識・技術、応用能力、研究能力を備え、企業や医療現場などの要請に積極的に応え貢献できる専門技術者・研究者・指導者を養成するとともに、地域社会や職場において聴覚・視覚障害者のリーダーとして活躍できる人材を育成します。

平成26年４月より障害による入学資格を設けない「情報アクセシビリティ専攻」が加わりました。当専攻では障害者支援や情報保障に関する教育や研究を行う専門家の養成をします。

## 産業技術学専攻

聴覚障害者の社会的自立・参画・貢献はもとより、専門領域に関する系統的な専門知識と技術を持ち、生産の現場において中核的な役割を担いうる高度専門職業人を育成することを目指し次の２コースを設置しています。

- 産業情報学コース
- 総合デザイン学コース

## 保健科学専攻

視覚障害者の社会的自立・参画・貢献はもとより、専門領域に関する系統的な専門知識と技術を持ち、社会において中核的な役割を担いうる高度専門職業人を育成することを目指し次の３コースを設置しています。

- 鍼灸学コース
- 理学療法学コース
- 情報システム学コース

## 情報アクセシビリティ専攻

障害者支援に関する専門的で系統的な知識と技術、そして情報保障の専門性を有する人材を育成することを目指し、次の３コースを設置しています。

- 障害者支援（聴覚障害）コース
- 障害者支援（視覚障害）コース
- 手話教育コース

# 障害者高等教育研究支援センター



近年、聴覚や視覚に障害のある人たちの大学進学が増加しています。聴覚及び視覚に障害のある学生に対する高等教育を推進するためには、障害の特性と学生の個性に即した教育内容や方法が必要です。障害者高等教育研究支援センターは障害者基礎教育研究部と障害者支援研究部を持ち、教養教育の編成と実践を行うとともに、障害補償システムの研究・開発及び障害者の能力開発に関する研究を進めています。また、学内支援にとどまらず、他大学に学ぶ聴覚及び視覚に障害のある学生に対する支援にも取り組んでいます。

平成22年度に文部科学省から「障害者高等教育拠点」として認定され、全国の高等教育機関から障害学生の修学に関するさまざまなニーズに対応しています。

## 障害者基礎教育研究部

障害者基礎教育研究部は、教養教育・専門基礎教育等の内容、カリキュラム、授業における情報保障の研究等を進めながら、障害者支援研究部や各学部と協力して授業内容の充実、授業方法の改善に取り組んでいます。基礎教育の授業を主に担当し、学生の多様な知識とものの見方・考え方の涵養と健康づくりを支援します。

### ●聴覚障害教育実践部門及び視覚障害教育実践部門

主に、教養教育・専門基礎教育等の編成・実践・支援を行います。

### ●教職課程部門

教職課程を担当する教員が所属し、教職課程に関する業務を担当しています。

## 障害者支援研究部

障害者支援研究部は聴覚障害部門及び視覚障害部門を持ち、最新の情報通信技術の発達を取り入れた新しい教育方法・教育機器・システムの研究・開発を行うとともに、障害に基づく学習上の困難を克服するための指導及び支援に障害者基礎教育研究部や各学部と協力して取り組んでいます。また、聴覚及び視覚障害に関する相談・支援を行うとともに支援のためのネットワーク作り等も行っています。

### ●障害補償システム開発研究領域

主に、情報保障または障害補償機器やソフトウェアの研究・開発・評価、教材作成等を行います。

### ●障害者能力開発研究領域

主に、聴覚及び視覚障害に関する相談・支援、コミュニケーションや就職に関する相談・支援・指導、職域開発等を行います。

### ●支援交流領域

主に、他大学に学ぶ聴覚・視覚障害学生の支援及びそのための全国ネットワーク作りを行います。



春日キャンパス校舎棟



天久保キャンパス校舎棟

# 教育研究施設等

## 保健科学部附属東西医学統合医療センター

東洋医学と西洋医学を統合して行う施設として設置され、鍼灸学コースと理学療法学コースの学生実習、資格取得後の臨床研修、教員研究の場として機能するとともに、東洋医学と西洋医学を統合して診療及び施術を行うことにより、地域医療の向上に寄与しています。

### ■診療科

外来診療

循環器内科、脳神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、放射線科、消化器内科、緩和ケア内科、整形外科、漢方内科

外来施術

はり・きゅう／あん摩・マッサージ・指圧

### ■主な検査項目

一般撮影、MRI、脳波、心電図、骨密度

## 附属図書館

両キャンパスに図書館を設置し、それぞれの学科・コースに必要な専門図書や教養図書、障害に関する資料等を収集・提供しています。また、図書館は一般にも公開されています。



聴覚障害系図書館



視覚障害系図書館



東西医学統合医療センター



保健管理センター

## 保健管理センター

学生・教職員が心身ともに健康で快適に勉学ができるように、健康に関する援助・助言をするための施設です。定期健康診断、日常の学生生活における病気やけがの対応の他に、悩み事の相談を受け付けています。

## 情報処理通信センター

情報処理通信センターは、本学の情報通信ネットワーク等の円滑な運用を図るために設けられています。特に、適切な情報セキュリティの確保や教育研究活動に必要な情報通信環境の整備・運用に力を入れています。

## 国際交流加速センター

国際交流加速センターでは、海外の組織と学術交流協定に基づく研究交流、短期留学生の受入れや本学学生の短期留学、国際感覚を養うための英語サロンの実施などを通して、グローバル教育を進めています。

## 教職課程センター

教職課程センターでは、主に中学校または高等学校の教員になるために必要な教員免許状を取得するための指導や相談、また教職課程に関する研修会や研究を行います。

# 教育関係共同利用拠点・主な連携事業

## 教育関係共同利用拠点「障害者高等教育拠点」事業　平成22年4月～

平成22年度に文部科学省から教育関係共同利用拠点の一つである「障害者高等教育拠点」として認定され、障害学生を支援する他大学の教職員からの様々な相談に応じつつ、支援のための研修講座も開催して、全国の高等教育機関からの障害学生の修学に関するさまざまなニーズに対応しています。

## 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）　平成16年10月～

本ネットワークは、全国の大学・短期大学で学ぶ聴覚障害学生の修学環境整備のため、特に積極的に支援を行っている大学・機関とともに組織しているもので、本学が代表幹事大学を務めています。聴覚障害学生支援のための相談窓口の開設や教材作成、モデル事例の構築、シンポジウムの開催等を行っており、本学で培ったノウハウや技術を広く提供することで全国の支援体制の向上に寄与しています。

## つくば市との連携事業に関する協定締結　平成17年10月～

本学では、つくば市と連携協定を締結し、双方の情報、資源、研究成果などの交流を促進し、連携してその活用を図るため、次の連携事業等を行っています。

・つくば市職員対象のユニバーサルデザイン研修の実施
・つくばスマートシティ協議会、つくば市観光基本計画策定委員会等の委員に参画

## 「社会との共創」に関連した連携協定　令和4年4月～

本学では「社会との共創」に係る中期目標・中期計画として独自目標を設定しており、社会連携に関する取組を推進しております。複数の学外機関と連携協定を締結し、協定に基づいた事業を進めています。

・首都圏新都市鉄道株式会社（令和4年4月～）
・一般財団法人日本財団電話リレーサービス（令和4年12月～）
・茨城県立医療大学（令和5年2月～）
・東京管区気象台、水戸地方気象台（令和5年3月～）
・日本空港ビルデング株式会社（令和7年10月～）



学生が講師となって、つくばエクスプレスにおいて実施したTX講座の様子

## 特別支援学校（聴覚障害）との連携協定

本協定は、本学と各特別支援学校（聴覚障害）が相互の連携を強化し、聴覚障害者の教育の改善及び情報保障の推進を図るものです。

・東京都立葛飾ろう学校（平成30年3月～）
・北海道高等聾学校（平成30年8月～）
・愛知県立岡崎聾学校（令和元年9月～）
・福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校（令和7年3月～）

## 産官学福連携による高等教育における学術手話通訳支援プラットフォーム形成事業（SAIL）

文部科学省「障害のある学生の修学・就職支援促進事業（手話通訳推進拠点）」として採択されました。全国の大学等で手話通訳支援が合理的配慮の標準的な選択肢の一つとなるための基盤整備を進めます。
（令和8年度～令和10年度）

# 情報公開

役員会や経営協議会等の諸会議に関する事項及び入学生数や在学生数等のデータについては本学ホームページで公開しております。
トップページ　＞　大学案内　＞　情報公開

# 建物配置図

## 天久保キャンパス

〒305-8520
茨城県つくば市天久保4-3-15
土地面積：44,088㎡
建物延面積：18,435㎡

※産業技術学部、共生社会創成学部、大学院技術科学研究科産業技術学専攻及び情報アクセシビリティ専攻があります。




## 春日キャンパス

〒305-8521
茨城県つくば市春日4-12-7
土地面積：39,614㎡
建物延面積：16,631㎡

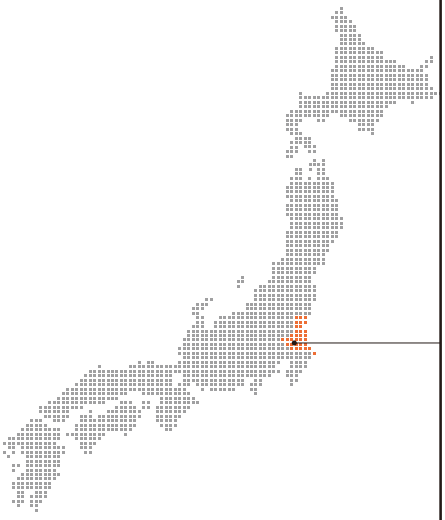
※保健科学部、共生社会創成学部、大学院技術科学研究科保健科学専攻及び情報アクセシビリティ専攻があります。

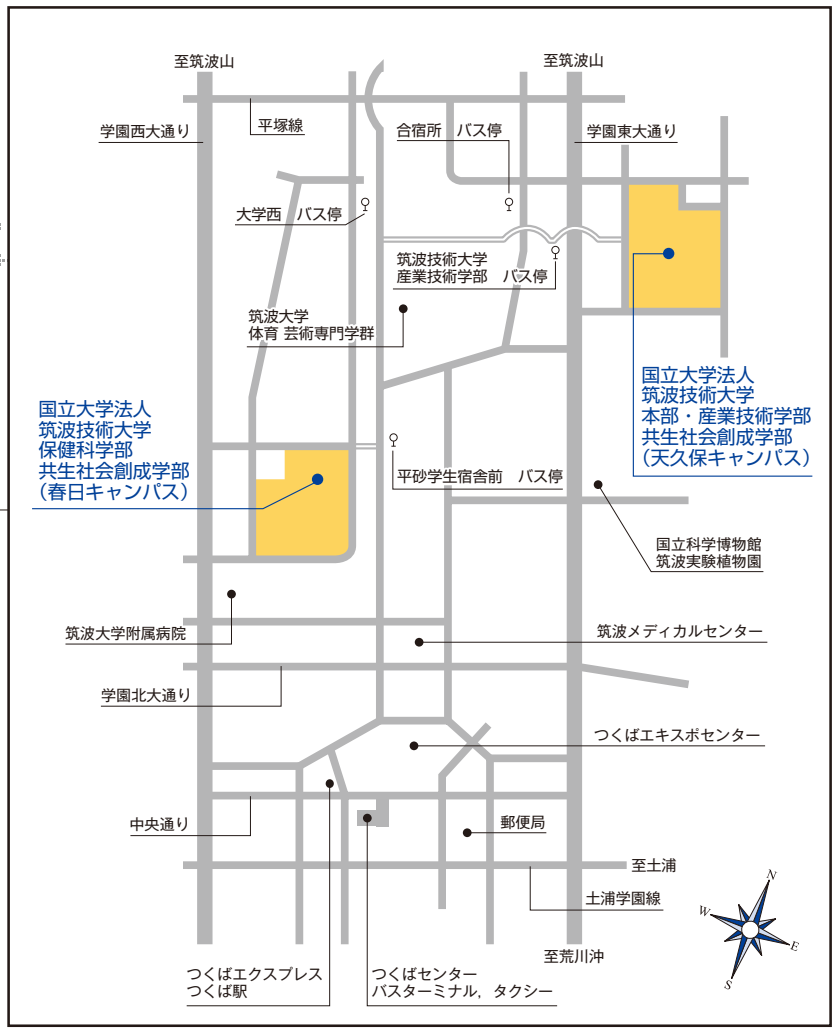



**凡　例**

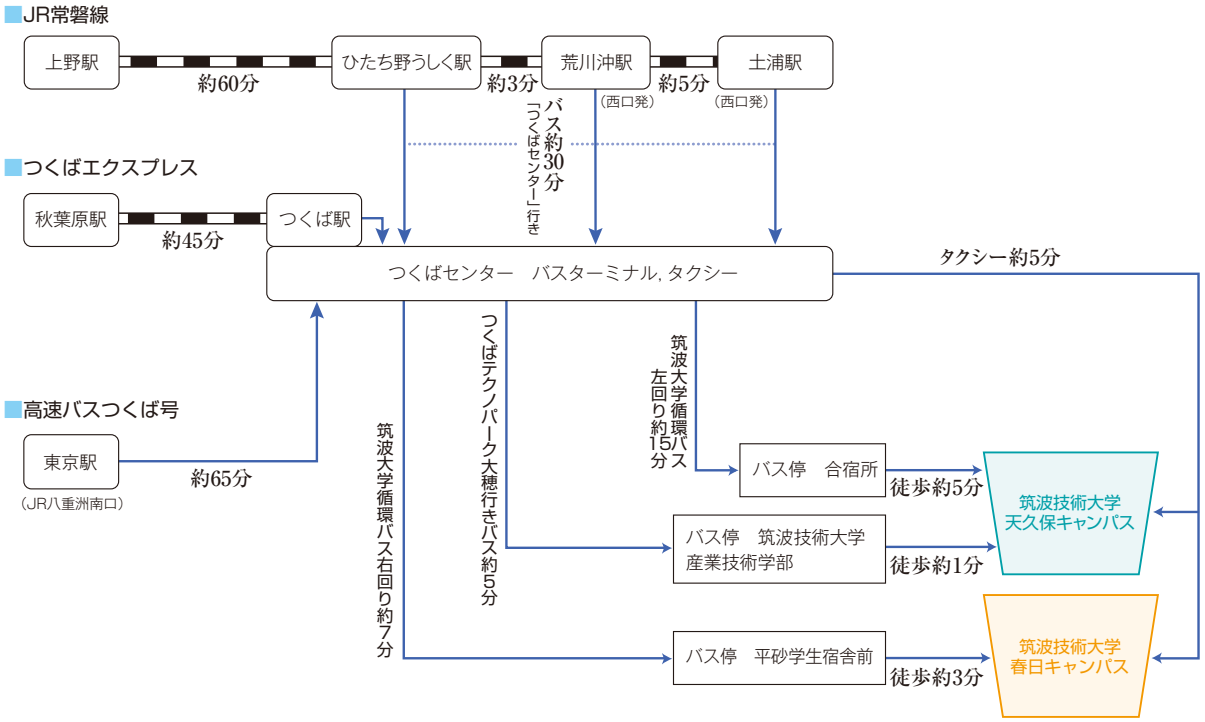
- P 駐車場
- 障害者用駐車場

# キャンパスの所在地・交通






## 交　通



国立大学法人
# 筑波技術大学

National University Corporation
Tsukuba University of Technology

日本でただ一つの
きこえない・きこえにくい人、
みえない・みえにくい人のための
国立大学です。

国立大学法人 筑波技術大学 大学概要 2026-2027
発　行　日：令和８年11月
発行・編集：筑波技術大学 広報室

https://www.tsukuba-tech.ac.jp/
Phone: 029-852-2931  FAX: 029-858-9312

技大の最新情報発信中！ぜひご覧ください。